



よい子の作文

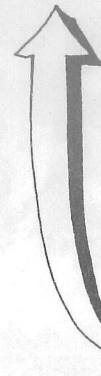


国立科学博物館を
見学して

真家 敦子 (横芝小五年)

(作文は各小学校に依頼して掲載しているものです)

皆さんの日常生活の中で、いろいろな出来事、生活上の知恵などありましたら、何でも結構ですの
で企画課広報係(☎②1115)
までご連絡ください。
また、記事中に掲載されている
写真をご希望の方、お譲りします。



「二列で、はいつて下さい。」
と、おっしゃる先生の声に わた
したちは中へはいった。と、同時
に、大きなきょうりゅうのかせき
がわたしの目にとびこんできた。
わたしは、一しゅんたちどまり
何億年も前を、思いうかべてみた。
多くのきょうりゅうのすがたが見
えてくるようだった。大むかしの
きょうりゅうたちが、この、国立
科学博物館で、生きているように
思えた。これからさまざまなかせ
きを見られると思うと、むねがわ
くわくした。
だんだんおくへはいつていった。

すると、思っていたとおり、大き
なかせき、小さなかせき、かえる
のかいぼう。きもちわるいものも
あるがとてもおもしろい。また、
メキシコのミイラ、南米の干し首、
大むかしのベキン原人の生活、古
生物、太陽と宇宙などもてんじさ
れていた。
ちよつと残念だったのが、二号
館と、三号館をみられなかったこ
とだ。そこには、日本のロケット、
ガラスせいひんなどがてんじされ
ているそうだ。とくに、ガラスせ
いひんなどは、写真で見たのだが
赤、青、黄などのさまざまなか色

つかわれ、花びん、コップ、おき
ものなどがきれいにしあがり、て
んじされていた。けれども、時間
との関係で見られなかったのだか
らしかたがない。だが、いちばん
見たかった「日本人のおいたち」
というのを、とてもよくみられた
のでよかった。その、「日本人の
おいたち」というところでは、主
として古人ほね資料を、時代的に
順をおつてんじし、人類学から
みた日本人のおいたちについて、
かいせつしてあった。また、頭こ
つ標本をてんじし、少しづつ現代
人に変化していくようすなども、
わかりやすくかいせつしてあった。
中でも、わたしは、特に、メキシ
コのミイラ、南米の干し首に興味
をもち、ちよつときみがわるかつ

たけれど、なぜか、よく見てしまっ
た。もし、この「日本人のおいた
ち」が、見られなかったら、もつ
と残念でたまらなかつただろう。
たった一時間しか見る時間がなか
つたのだから、見られないところ
があつてもあたりまえだと思ふ。
それに、時間がなくて、おみやげ
ものをかうひまもなかつた。わた
しは、何か思い出に残る物が、そ
の近くに売ってないかな、と思ひ
ながら、集合場所のあたりをさが
してみた。すると、すぐそばに、
一つの、はんばいきがあつたので、
いそいで、そばにいつてみた。「国
立科学博物館ガイドブック」とい
う本が、三百円で売っていた。
わたしは、きょうの思い出にこの
本をかうことにした。

バスの中へはいり、すぐまどを
いっばいにあけた。走りだしてか
ら、わたしは「国立科学博物館」
を思い出しながら、ガイドブック
を広げた。そして、大むかしの生
活や宇宙の星を空そうしながら、
帰りの道をバスに、ゆられた。
とにかく、すばらしい「国立科
学博物館」だった。とてもおもしろく、たのしかつたのだが、まだ
みたりないので、チャンスがあつ
たら、またいきたいと思ふ。いや、
何べんでも行つて、もっとゆつ々
り見たいと思ふ。



横芝句会八月例会

- 土屋 栗水
 - 石川 奇水
 - 成田 慊子
 - 宇井 芝童
 - 藤代 ゆう
- 庭下駄に夕べの露や岐阜提灯
炎帝の地に焼きつけるもの影
秋暑し園児らひたと昼寝どき
放れ大残暑の門をうかがえる

- 津田 若菜
 - 向後 雅子
 - 安井ゆづる
- 細さらす水存分に秋暑し
岐阜提灯灯影の揺れが見えており
歩道橋登つて下りて秋暑し

- 秋暑くりンクシュートの庭の児等
- 河童連足裏白きプールかな
- 読書会皆黙し居り秋暑し
- 鈴木 南知

- 木下石果子
- 三枝 句城
- 古屋 紅雲
- 兼題 「紫蘇の実」「障子貼る」
- 日時 十月五日(金)
- 次回 十月五日(金)
- 原 ひさし
- 医とし老ゆ残暑に白衣脱がぬまい
- 草蜚涙のようにこぼれけり
- 八角とし子

